

障害児および高齢化する障害者の摂食嚥下障害への対応 ～重症心身障害児(者)の嚥下障害を中心に～

講師：愛知県医療療育総合センター中央病院

参加無料

歯科部医長 加藤 篤 先生



2004年 朝日大学歯学部卒業
2004年 名古屋市立大学病院 歯科口腔外科医員
2005年 名古屋市立大学病院 歯科口腔外科臨床研究医
2009年 愛知県心身障害者コロニー中央病院歯科
(現 愛知県医療療育総合センター中央 病院歯科部)医長
～現在に至る
2018年 朝日大学大学院歯学愛知県医療療育総合センター中央病院
歯科部医長 研究科歯学専攻博士課程修了
2018年 朝日大学障害者歯科学分野非常勤講師

日本障害者歯科学会 理事・代議員・認定医・指導医・専門医
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士・評議員

日 時： 令和8年3月15日(日) 10:00～12:00 (質疑応答含む)

会 場： 津市中央公民館 会議室 (津センターパレス2 階)

対 象： 歯科衛生士等

参加費： 無料

申込み： 下記URLまたは二次元コードからお申込みください
<https://forms.gle/kyeDfUmBK7Tx5zTu5>

申込フォーム



申込締切：3月5日(木) 定員になり次第締め切りとさせていただきます。

抄録

愛知県医療療育総合センター中央病院 歯科部医長 加藤 篤

小児や障害児(者)の摂食嚥下障害は生後間もなくからその対応が始まり、高齢となるその時まで悩まされることも多々あります。近年の医療の進歩によりさまざまな重症な障害を持って生まれた児でも、十分な呼吸管理や栄養管理が行われることにより健常者と同様に生き、日常生活を送ることができるようになってきました。つまり摂食嚥下障害においては高齢者に比較して障害児(者)では圧倒的にその病悩期間が長いといえます。そのような状況であったとしても口から食べることの喜びを感じてほしいと願っているのは保護者だけではなく我々医療者も同じだと思います。ただし現実はそのままで理想通りに進まないこともあり、つらい決断をしなくてはならない場面にも多く遭遇します。障害児(者)にとって今どのような支えが必要か、常に考えています。

障害児(者)の摂食嚥下に対応する医療者は上述した小児期から高齢期に及ぶまでロングスパンの対応を行うことは必要であり、ライフコースに応じた柔軟な対応が求められます。今回はその一部ではありますが、対応法を含め重症心身障害児(者)に的を絞り全般的にお話させていただきます。